

30年5月分 合板工場の荷動き・価格先行き動向調査 1

1. 調査実施期間 平成30年 5月1日～ 30年5月10日

2. 調査実施方法

全国の合板工場-1に対し、アンケート調査票を送受することにより実施した。
5月分の回答企業数は6社である。

3. 判断指数の算出方法

各調査項目について以下の方法でウェイト・ディフュージョン・インデックスを算出した。

Weight.D.I.(ウェイト・ディフュージョン・インデックス)={(「増加」の評価を行った回答の割合)×2+(「やや増加」の評価を行った回答の割合)-(「減少」の評価を行った回答の割合)×2-(「やや減少」の評価を行った回答の割合)}÷2
したがって、この割合がゼロの場合はその増加と減少が等しいことを示し、プラスになるほど増加が多く、逆にマイナスになるほど減少が多いことを示す。

4. 調査結果の概要

(1) 国産原木入荷動向 Weight. D. I.

品目		30/5月	6月	7月
入荷動向	スギ	△ 25.0	16.7	8.3
	ヒノキ	16.7	0.0	0.0
	カラマツ	0.0	△ 8.3	△ 8.3
	トドマツ	△ 16.7	△ 16.7	△ 16.7
消費動向	スギ	△ 8.3	25.0	8.3
	ヒノキ	0.0	16.7	0.0
	カラマツ	8.3	8.3	8.3
	トドマツ	0.0	16.7	16.7
在庫動向	スギ	△ 8.3	0.0	0.0
	ヒノキ	33.3	0.0	0.0
	カラマツ	20.0	0.0	10.0
	トドマツ	△ 25.0	△ 25.0	△ 25.0

・スギの入荷動向は5月の減少から6月、7月は増加に。ヒノキは5月の増加から6月、7月は横ばいに。カラマツは5月の横ばいから6月7月は減少に。トドマツは3カ月連続減少。

・スギの消費動向は5月の減少から6月、7月は増加に。ヒノキは5月の横ばいから6月は増加、7月は再び横ばいに。カラマツは3カ月連続増加。トドマツは5月の横ばいから6月、7月は増加に。

・スギの在庫動向は5月の減少から6月、7月は横ばいに。ヒノキは5月の増加から6月、7月は横ばいに。カラマツは5月の増加から6月、7月は横ばいに。トドマツは3カ月連続横ばい推移。

(2) 合板用原木購入価格動向 Weight. D. I.

品目	30/5月	6月	7月
スギ	8.3	8.3	8.3
ヒノキ	0.0	16.7	16.7
カラマツ	8.3	8.3	8.3
米マツ	33.3	50.0	50.0
北洋カラマツ	33.3	50.0	50.0
その他	0.0	0.0	0.0

・合板用原木の購入価格動向はスギ、ヒノキ、カラマツとも強保合。

・米マツ、北洋カラマツは強含みで推移。

モニターからのコメント

(原木荷動き)

・生産に合わせての入荷。生產品目により多少の増減はあるが、ほぼ横ばい。原木は安定的に入荷しており、カラマツは他メーカーと取り合いになるケースが多い。5月はオールスギ製品の受注が多いが、現状の丸太在庫で何とかなる。在庫はほぼ横ばい。

・スギは消費量分入荷。カラマツは夏場減少するものと予想。フロア台板の安定生産・供給するべくトドマツの仕入増に力を入れている。消費は工場稼働日数にもよるが、全体としてフロア台板用トドマツの消費が増えている。在庫の増減は特に意識していない。

・入荷はスギがやや減少、ヒノキ増が目立つ。生産計画に添い消費。在庫はスギが減少、納材計画通りに努めるよう各社に要請。

・置き場所がないため入荷制限する。消費は稼働日数で決まる。在庫は横ばいをキープする。

・スギは地産地消として非住宅物件対応で調整。カラマツは四半期ごとに調整で横ばい。スギはインテリア用が消費好調。

(原木価格)

- ・カラマツは高値で下がる要素がない。需要によっては値上げあり得る。
- ・米マツ、北洋カラマツともに強含みで推移している。毎年夏場の山火事による伐採量の減少が懸念されており、今後の価格にも注意が必要。
- ・スギ、ヒノキ、カラマツとも高止まりにて横ばい。
- ・購入価格横ばいをキープする。
- ・スギは少量購入のため高値購入。カラマツは四半期ごとで横ばい。北洋カラマツは出材減と価格高騰。

30年5月分 合板工場の荷動き・価格先行き動向調査 2

4. 調査結果の概要

(1) 生産動向 Weight. D. I.

品目		30/5月	6月	7月
生産動向	構造用(9mm)	10.0	25.0	12.5
	〃 (12mm)	0.0	20.0	10.0
	〃 (15mm)	△ 20.0	20.0	0.0
	〃 (24mm)	△ 25.0	10.0	10.0
	〃 (28mm)	△ 8.3	10.0	10.0
出荷動向	構造用(9mm)	8.3	10.0	10.0
	〃 (12mm)	△ 14.3	7.1	8.3
	〃 (15mm)	△ 7.1	8.3	16.7
	〃 (24mm)	△ 14.3	7.1	8.3
	〃 (28mm)	0.0	10.0	12.5
在庫動向	構造用(9mm)	0.0	0.0	△ 10.0
	〃 (12mm)	0.0	△ 8.3	0.0
	〃 (15mm)	△ 7.1	0.0	△ 8.3
	〃 (24mm)	14.3	0.0	△ 8.3
	〃 (28mm)	0.0	0.0	△ 10.0

・構造用合板の生産動向は、9mmは3カ月連続増加。12mmは5月の横ばいから6月、7月は増加に。15mm、24mm、28mmは5月の減少から6月、7月は増加に。

・出荷動向は、9mmは3カ月連続増加。12mm、15mm、24mmは5月の減少から6月、7月は増加に。28mmは5月の横ばいから6月、7月は増加に。

・在庫動向は、9mmは5月、6月の横ばいから7月は減少に。12mmは5月の横ばいから6月は減少、7月は再び横ばいに。15mmは5月の減少から6月は横ばい、7月は再び減少に。24mmは5月の増加から6月は横ばい、7月は減少に。28mmは5月、6月の横ばいから7月は減少に。

(2) 構造用合板出荷価格動向 Weight. D. I.

品目		30/5月	6月	7月
構造用(9mm)		12.5	0.0	12.5
〃 (12mm)		20.0	12.5	12.5
〃 (15mm)		10.0	12.5	12.5
〃 (24mm)		20.0	12.5	12.5
〃 (28mm)		20.0	12.5	12.5

・構造用合板の出荷価格動向は全品目とも保合。

モニターからのコメント

(構造用合板の荷動き)

・15mmと24mmが減った分9mmの増と非構造用へ生産シフト。引き合いが強かった9mm、15mmは少し落ち着いてきた。全体的に端境期により出荷は低迷。特に12mmと15mmの在庫が増えた。動き出すのは6月頃か。

・フル生産を継続中。全品目の安定生産・供給に努める。出荷堅調の見通し。今後製品の受注も増えてくると予想する。在庫水準が依然低く、回復に向けフル生産を継続している。

・計画通り生産。出荷はヒノキ製品及び28mm品が増加。12mm、28mmの在庫が減少。

・各メーカーとも9mm、24mm×3×6品目の製造が少なく不足感があるが、レギュラー品の12mm×3×6は在庫が多い状況。そのため若干の値崩れが発生している。

(構造用合板の価格)

・3月よりの値上げようやく浸透しはじめてきたが、客先より抵抗強い。

・製品の出荷価格に特に変化はない。

・当月よりやや上昇傾向。

・原木価格、他のコスト費用次第では価格の見直しもあり得る。このまま様子見状態。

・今期の新設住宅のスタートが遅れており、販売を急ぐ商社の対応により値崩れが発生している。夏頃には住宅、公共物件ともに活発に推移し、単価も戻ってくると予想。